



|              |                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| Title        | タイ語における動詞の反復                                                                |
| Author(s)    | 宮本, マラシー                                                                    |
| Citation     | 外国語教育のフロンティア. 2020, 3, p. 11-29                                             |
| Version Type | VoR                                                                         |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/75589">https://doi.org/10.18910/75589</a> |
| rights       |                                                                             |
| Note         |                                                                             |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## タイ語における動詞の反復

## Reduplication of Verbs in the Thai Language

宮本 マラシー

## Abstract

In the Thai language, reduplication of words frequently occurs in verbs as well as nouns and adjectives, etc. The reduplication of verbs is utilized to add various meanings to a verb. However, a lot of previous works concerning reduplicated Thai words have pointed out no more than that the reduplication of verbs indicates continuation and reiterative activities.

It is the purpose of this paper to study the word construction and semantic characteristics of verbs for which reduplication occurs. The results show the structural features of the verb reduplicated and the meanings produced by the reduplication as follows:

1) The reduplication of verbs usually occurs in monosyllabic words, and can consecutively occur in two verbs, e.g. “kin(eat) / นอน(sleep)”→“kin-kin-นอน-นอน(eat-eat-sleep-sleep)”, as well as in solo verbs, e.g. “yím(smile)” → “yím-yím(smile-smile)”.

2) The consecutive reduplication of two verbs indicates continuation and reiteration of two activities or idiomatic meanings. The reduplication of solo verbs indicates passivity, imprecision, urging, activities of unspecified large numbers or plurality of agents, as well as continuation and reiteration of an activity, and idiomatic meanings. Moreover, the reduplication of solo verbs sometimes implies the agent’s mental state in addition to physical activity.

Additionally, functional conversion through verb reduplications has been observed. Specifically, the function of reduplicated verbs has been seen to shift to mimic the function of adverbs when they follow another verb, but to adjectives when they follow a noun.

キーワード：タイ語、反復語、動詞の反復、機能転換

Key words: Thai language, reduplicated words, reduplication of verbs, functional conversion

## 1. はじめに

## 1.1 問題の所在及び先行研究

タイ語においては、殆どの品詞において反復が見られる。動詞においても頻繁に反復が

行われる。たとえば、「dèk dèk yaŋ klua klua khruu yùu (子供たちはまだ先生をちょっと怖がっている)」における「klua klua (怖がる・怖がる)」は「klua (怖がる)」の反復であり、「どちらかと言えば怖がっている」、または「ちょっと怖がっている」という意味で用いられる。動詞も含めタイ語の反復について論じられている記述は以前から少なからずある。たとえば、ブルミンヘン (Bruminhen) (1966)、ソムボン (Sompong) (1967)、バンドゥメター (Bandhumedha) (1970)、三上 (2002)、アンチャリーヌクーン (Anchaleenukoon) (2003)、宮本 (2003)、イワサキ&インカーピロム (Iwasaki&Ingkaphirom) (2005)、そしてパックスック (Paksasuk) (arts.tu.ac.th/culture/010856.pdf) など。

Bruminhen (1966) は、タイ語の反復語について、繰り返すことが出来る語と、繰り返すことが出来ない語があるとした上で、繰り返すことが出来る語の場合、単語が繰り返されることで元の単語にどのような意味的な変化が見られるのかについて論じている。動詞は繰り返されると、複数回繰り返し行われる行動を表すものもあれば、意味が軽くなるものもあると指摘している。たとえば、「chán maa khít khít duu (私は何度も考えてみた)」における「khít khít (何度も考える)」は複数回繰り返し考えることを表す。「kháo yaŋ klua klua rao yùu (彼はまだ私たちがちょっと怖がっている)」における「klua klua (ちょっと怖がっている)」は「klua (怖がる)」より意味が軽くなっている。(Bruminhen 1966:45-46)。

Sompong (1967) は、タイ語における反復が見られる文型と見られない文型、反復語における音声的变化、そして反復語の意味について論じている。動詞の場合は、副詞が伴われる動詞や「はい」または「いいえ」の返事が求められる疑問文等においては繰り返すことができないことを指摘している。そして、「phûut (しゃべる)」→「phúut phûut (よくしゃべる)」や「chǎp (好きだ)」→「chǎp chǎp (とても好きだ)」のように、繰り返されると音声的な変化が生じる動詞もある。また、動詞に反復が行われると「よく～、とても～」というように意味が強調される場合もあれば、同じ動作を繰り返し、または継続的に行われること等を意味するようになることも記述されている。

Bandhumedha (1970) は、タイ語では、繰り返すことができる語もあれば、繰り返すことができない語もある。また、動詞が繰り返されると動作の継続を表すと記述している (Bandhumedha 1970:65-70)。

三上 (2002) はタイの反復語を、音節の全体的反復と部分的反復の2種類に大別している。音節の全体的反復には、複数、動作の継続・反復、意味の強化・弱化、といった様々な意味が表されると指摘している。また、動詞の反復語は「kin kin (食べ続ける)」や「dəən dəən (歩き続ける)」のように、動作の継続や反復を表すと指摘している (三上 2002:54)。

Anchaleenukoon (2003) は、様々な品詞において作られるタイ語の反復語の種類やそれらの反復語が表す意味について論じている。しかし、動詞の反復語については、例文は紹

介されているが、動詞が繰り返されることでどのような意味を持つようになるのかについては指摘していない。

宮本（2003）は、タイ語の催促を表す表現の一環として動詞の反復語も取り上げている。たとえば、「pai pai pai（行け！、行け！、行け！）」や「duu duu duu（見て！、見て！、見て！）」等はある特定の行動を促す表現である。反復回数は催促の程度を表すと指摘している（宮本2003:322-323）。

Iwasaki&Ingkaphirom（2005）は、タイ語の反復を、単純反復（Simple reduplication）、複合反復（Complex reduplication）、そして意味的反復（Semantic reduplication）の3つに類別している。単純反復では、「phram phram（雨がしとしとと長く降り続ける音）」や「sûu sûu（雨がひとしきりザーッと降る音）」等を取り上げ、反復語はオノマトペとして用いられることは指摘している（Iwasaki&Ingkaphirom 2005:35）。しかし、動詞の反復の意味については触れていない。

Paksasuk（arts.tu.ac.th/culture/010856.pdf）は、タイ語の反復の一環として英語から借用された語に見られる反復について記述している。英語から借用された語は繰り返して用いられると、元の英語から変化した語構成、意味、機能を持つことについて述べている。動詞については「win（勝つ）」→「win win（両側が利益を得る）」を取り上げ、意味には変化が見られるが、語の機能には変わらないことを指摘している（arts.tu.ac.th/culture/010856.pdf）。Paksasuk（arts.tu.ac.th/culture/010856.pdf）は反復語全体を論じているが、動詞の反復語には焦点を当てていない。

上記の記述においては、動詞の反復語の意味について言及したのはBruminhen（1966）、Sompong（1967）、Bandhumedha（1970）、三上（2002）、宮本（2003）、そしてPaksasuk（arts.tu.ac.th/culture/010856.pdf）である。そして、反復が行われる動詞の機能について触れているのはPaksasukの記述にしか見られない。いずれにしても、それらの記述も動詞の反復語の意味に焦点を当てて考察されたものではない。動詞が繰り返されると、先行研究が指摘した以外にどのような意味が生じるのか、また意味以外にもなんらかの変化が見られるのかについてはまだ不明な点が残されている。

## 1.2 研究目的及び研究資料

本稿は、上記の記述で言及された意味以外に、動詞に反復が行われるとどのような意味的な変化が見られるのか、また意味的な変化以外にはどのような変化が見られるのかを明らかにすることに目的がある。研究の対象として用いている動詞の反復語は、日常生活でタイ人が交わしている会話、インターネットで見られる表現、小説『ブップペーサンニワート（Bupphesanniwaat）』（2015）<sup>1)</sup> から収集したものが主流であるが、タイ語母語話者コンサルタント（以降：コンサルタント）<sup>2)</sup> に作成してもらったものもある。インターネッ

ト上と小説から引用したものはその出典をそれぞれの後部に記す。出典が記されていないものは、日常生活でタイ人が交わしている会話、またはコンサルタントに作成してもらったものである。

なお、本稿で研究の対象として用いる動詞の反復語は、単純語の全体を繰り返して作られる反復語のことであり、「dǎən hǎən」、「hǎəŋ hǎəŋ」などの単純語の一部（頭子音、母音等）を繰り返して作られる動詞の反復語は対象外である。

## 2. タイ語における動詞の反復語

広辞苑（2008）によると、動詞は「事物の動作・作用・状態・存在などを時間的に持続し、また時間的に変化していくものとしてとらえて表現する語。多くの言語で述語の主要成分としての機能を果たす」と定義されている。また、動詞は、「自動詞」や「他動詞」等のような結合価による分類、「状態動詞」、「活動動詞」、「到達動詞」、「達成動詞」のように相による分類、「意志動詞」、「無意志動詞」のように意志による分類、など様々な分類がある。本稿では広辞苑に従って動詞を定義する。しかしながら、タイ語では同じ言葉が「自動詞」としても、また「他動詞」としても用いられる動詞も多く存在し、また、「状態動詞」と「到達動詞」と「達成動詞」に類別しにくい言葉も多いことから、分析の対象とする動詞は意志動詞 (volitional verb) なのか無意志動詞 (non-volitional verb) なのかによって分類する。それぞれのカテゴリーの動詞に反復が行われると、どのような意味的な変化が見られるのか、また意味以外にも何らかの変化が見られるのかについて検討する。

### 2.1 意志動詞の反復

内山（2010）によれば、「意志動詞は人間などの意志による動作・行為を表す動詞であり、主語が意志的に制御できる。命令・禁止・願望・意志・依頼・可能・等の形をとれる」<sup>3)</sup>。その定義に従うと、タイ語においては、たとえば、kin（食べる）、pai（行く）、càp（触る）、khít（考える）、rian（習う）などは意志動詞に類別できる。これらの動詞には、単独の動詞において反復が行われることもあるし、「AABB」のような複数の動詞において連続して反復が行われることも見られる。また、反復が行われることにより、様々な意味的な変化が生じる。本節では、まず、単独の動詞において行われる反復語と複数（2語）の動詞で連続的に行われる反復語に分類し、それぞれの項では、反復によって変化した意味ごとに下位分類して記述していく。

#### 2.1.1 単独の動詞において行われる反復

単独の意志動詞は反復が行われると、その動詞が本来持っている意味に様々な変化が生じる。それらの意味的な変化は2.1.1.1～2.1.1.6で記述する。

### 2.1.1.1 消極的、または控え目な行動

動詞は繰り返されると、その動詞が表す動作や行動を積極的に行いたくない動作主の意志を含意するようになる。また、その繰り返される動詞が他の動詞と共に起すれば、動作主の主となる行動ではなく、共に起する動詞を修飾し、その動詞が表す動作や行動が行われている状態を表すようになる。例（1）と（2）を見てみよう。

- (1) phoo doon thăam kháo kô yím yím, mâi phûut ?arai.

聞かれると、ちょっと微笑んで何も言わなかった。

- (2) khun yǐn Champaa hǎn maa mǝŋ lǎn phlaaŋ phûut yím yím.

チャンパー夫人は振り返って、少し微笑みながら話した。 [Bupphesanniwaat:130]

(1) の「yím yím（微笑む・微笑む）」は「yím（微笑む）」の繰り返しであり、「何か隠しごとがあったり、答えたくない事情があるので微笑みでごまかしている」と解釈できる。ここでの「yím yím（微笑む・微笑む）」は心から微笑んでいるのではなく、「仕方なく少し微笑んでいる」という意味合いで用いられ、動作主の動作または行動においての消極性や不自然さが感じられる。一方、(2) の「yím yím（微笑む・微笑む）」も「少し微笑む」となり、「phûut（話す）」に後続して用いられていることで「phûut（話す）」を修飾し、チャンパー夫人が「少し微笑みながら話している」ということを表す。(2) では、「phûut yím」ではなく、「phûut yím yím」となるように、後続する「yím（微笑む）」は必ず繰り返される。

上記のとおり、意志動詞は繰り返されると、動作主の消極的または不自然な行動であったり、控えめな行動を表す。また、反復の意志動詞は他の動詞に後続するとその動詞を修飾して副詞的に用いられる場合もある。

### 2.1.1.2 適当に、気軽に素早く取る行動

反復が行われる動詞は（3）と（4）に示すように、慎重に行われるのではなく、そのとき、その場に合わせて適当に、または気軽に素早く行うことを表す。

- (3) mii ?arai kô sài sài pai.

持っている食材を （適当に何でも）入れてください。 [https://twitter.com/]

- (4) khun nâa ca hâi hâi nǝn kháo pai sǎ tɛɛ rɛɛk.

最初から彼女にお金を さっさと渡したらよかったのに。 [Anchaleenukul,2003:27]

(3) の「sài sài (入れる・入れる)」は「sài (入れる)」の繰り返しであり、「持っている食材は適当に何でも入れる」という意味合いで「真剣に考えることなく気軽にする」というような行動の気軽さを表す。そして、(4) の「hài hài (与える・与える)」は「さっさと渡す」という意味合いで「迷ったり手間取ったりしないで、素早く行動をする」ことを表す。

これらの場合、動詞が繰り返されることで、熟考せずに直ぐに行動を起こす意味合いを持つようになる。

### 2.1.1.3 継続及び繰り返される行動

反復が行われた意志動詞は (5) ～ (9) のような繰り返しや継続される行動を表すようになる場合もある。

- (5) Ketsurang....mâi dâi lưak sủu ?arai phiaj tề càp càp duu thônán.

ケートスラング (女性の名前) は何も買わなかったが、ただ (いろんなものを) 触っていただけです。 [Bupphesanniwaat:237]

- (6) yàak kin tua nãi kớ pai chii chii ?ao rừu cào khá.

どの鶏を食べたいのか、それを指さすんですか。 [Bupphesanniwaat:200]

- (7) khít khít léeo mâi sủu dii kwàa.

(何度も繰り返し) 考えた結果、買わない方がいい。

- (8) rian rian pai, phồ cồp ?ỏk maa điao kớ ruai ?eej.

勉強し続けると、卒業後ほっておいてもお金持ちになるのよ。 [https://pantip.com]

- (9) khàp khàp yừu rôt dáp.

運転している最中、突然エンジンが止まった。 [https://pantip.com]

(5) の「càp càp (触る・触る)」は、あるものをただ触るという意味で用いられる「càp (触る)」と違い、一つまたは複数のものを複数回繰り返し触ることを表す。そして (6) の「chii chii (指さす・指さす)」も何か一つを一回だけ指さすという意味で用いられる「chii (指さす)」と違い、一つまたは複数のものを複数回繰り返し指さすことを表している。一方、(7) ～ (9) のように、繰り返される意志動詞に「léeo (完了を表す語)」、「pai (行く)」、「yừu (いる、ある)」という語を後続して用いることがある。(7) の「khít khít léeo (考える・



考える・～と)」、と (8) の「rian rian pai (習う・習う・行く)」のように、「léeo (～と)」や「pai (行く)」が伴われると、何度も考えた結果、または習い続けた結果を表す文が後続することが一般的である。反復されていない「khít léeo」では、「考えると」という意味があり、繰り返して考えた結果という意味合いはない。そして、「rian pai」のように繰り返されないと、「習うと、、、」、または「習っても、、、」という仮定表現あるいは逆説の意味合いとして用いられ、習うという行動を継続的行なった結果という意味はない。(9) の「khàp khàp (運転する・運転する)」は「khàp (運転する)」という動作が継続していることを表しているが、「khàp khàp yùu (運転する・運転する・いる)」という形で、「yùu (いる)」が伴われると、「運転している内に突然～」という意味合いで用いられ、「エンジンが止まる」といった予期せぬ出来事を表す文が後続している。この場合、「khàp yùu (運転する・いる)」のように、「khàp (運転する)」を繰り返さない場合は、単に「運転している」ことを表すだけで、(9) で示されている状況のように、「～の最中に、～していると突然」といった意味合いにはならない。

上記の反復された意志動詞は繰り返し及び継続される行動を表すような意味合いを持つ。それらの反復された動詞は「léeo (～と)」、「pai (行く)」、「yùu (いる)」と共起すると、その行動に伴われる結果や出来事を表す文が後続することが一般的である。

#### 2.1.1.4 促される行動

意志動詞は繰り返され、命令文として用いられると相手に対してある行動を促すという意味合いを持つ。例を (10) と (11) で見てみよう。

(10) pai pai pai!

行け!行け!行け!

[宮本2001:322]

(11) kin kin kin kin!

食べろ!食べろ!食べろ!食べろ!

[宮本2001:323]

(10) と (11) のように、命令形として用いられている「pai (行け!)」と「kin (食べろ!)」は繰り返されると、「pai pai pai (行け!行け!行け!)」と「kin kin kin kin (食べろ!食べろ!食べろ!食べろ!)」となり、相手に対する「行く」や「食べる」という行動を直ちに行うように催促するという意味合いを持つ。この種の反復は、「ある特定の行動を行うように催促を表す表現である。反復回数は催促の程度を表す」と宮本 (2003: 322) の指摘にもあるように、反復回数が多ければ多いほど催促の意味合いが強くなる。



#### 2.1.1.5 多数の動作主による行動

意志動詞に繰り返しが行われると、(12) と (13) のように、表す動作や行動は複数または不特定多数の人のものである意味合いを持つようになる。

- (12) chûai chûai kan nòi ná khráp, nám duum thii móp yéek Khuan Nong Hong lưà nòi lếo、、、  
ちょっと助けてください。クアン・ノング・ホング交差点にいるデモ隊にはお水が少ししか残っていないんです。  
[https://th-th.facebook.com/]

- (13) tuan tuan kan nòi ná yàa hâi khrai phlố chái kham-phút bẻp nán ?iik.  
我々は、そのような言葉遣いを二度としないように互いに注意し合わないといけない。

(12) の「chûai chûai kan (助ける・助ける・互いに)」は不特定多数の人を相手にして依頼、または命令として用いられる。ここでは、「chûai kan (助ける・互いに)」のように、動詞「chûai (助ける)」は繰り返されなければ、依頼または命令の対象となる人は一人であることも考えられる。(13) の「tuan tuan kan (注意する・注意する・互いに)」は多数の人の間で互いに注意し合うことを表す。「tuan (注意する)」は繰り返されなければ、聞き手は一人であることも考えられる。

(12) と (13) のような動詞の反復語は、単独ではなく、多数の動作主の行動を表している。

#### 2.1.1.6 慣用的な意味合い

意志動詞は (14) ～ (17) のように繰り返されることで、本来持つ意味から離れた意味合いを持つようになることもある。

- (14) cùu cùu Ketsurang kớ rúusuk khỏn lúk sủu khủn maa.  
突然、ケートスラング (女性の名前) は鳥肌が立った。 [Bupphesanniwaat:12-13]

- (15) phỉi tỏo rakhaa lên lên tẻ khon khắi lỏt hủi cỉn cỉn lỏi tỏi sủu.  
私は遊び半分で値段を交渉したが、店員が本当に負けてくれたので、買わなければならなかった。

- (16) ?iik fủai mủn khỏo maa rian lên lên mủak kwỏa ca cỉn cỉn ?arai.  
相手は本気で習うというよりも遊び半分で入ったみたい。 [https://books.google.co.jp]

(17) yàa khít wâa kaan yêe dèk pen ruaṅ lèn lèn.

子供をからかうことは（何も考えずに）気軽に出来る事だと考えるな。

[<https://mgronline.com>]

(14) の「cùu（突進する）」は「cùu cùu（突進する・突進する）」と繰り返されると、「突然～」という意味合いを持つ慣用句になり、動詞としてではなく、副詞として文頭に置かれている。(15) と (16) の「lèn lèn（遊ぶ・遊ぶ）」は、「lèn（遊ぶ）」という動詞の繰り返しであり、「tòo raakhaa（値切る）」と「rian（習う）」を修飾し、「（買うつもりはないが）試しに値切ってみた、遊び半分で値切っていた」、「（本気で習うつもりはなかったが）遊び半分で習う」という意味合いで用いられている。この「lèn lèn（遊ぶ・遊ぶ）」は「lèn（遊ぶ）」から意味が拡張され、「試しに～」、「本気でなく～」という意味合いを持つようになり、他の動詞を修飾している。一方、(17) の「ruaṅ lèn lèn（事・遊ぶ・遊ぶ）」の「lèn lèn（遊ぶ・遊ぶ）」は「気軽に出来る～」という意味合いで用いられ、「ruaṅ（事）」を修飾し、形容詞的に用いられている。(15) ～ (17) にある「lèn lèn（遊び半分で～）」も (14) の「cùu cùu（突然～）」と同じように、慣用的な意味合いで用いられる場合は反復語の形になるのが普通である。

単独の意志動詞は繰り返し用いられると、(1) と (2) のように行動が消極的や控えめであるという意味合いを持つようになったり、本来持っている意味が弱化されたりするものもあれば、(3)、(4)、(10)、そして (11) のように行動に積極的な意味合いを持たせるようになるものや、(5) ～ (9) のように行動の繰り返しや継続の意味合いを持ったり、(12)、(13) のように単独の動作主の行動ではなく多数の動作主の行動であることを意味したり、(14) ～ (17) のように本来その動詞が表す意味から拡張されて慣用的な意味合いを持つようになるものもある。また、繰り返されても動作や行動を表す動詞として用いられるものが多く見られるが、動詞としてではなく、文頭に置かれる副詞として、または他の動詞や名詞の修飾詞として用いられるものも少なくない。

### 2.1.2 複数の動詞において連続して行われる反復

反復は2.1.1で記述した単独の動詞以外にも、(18) ～ (20) のように「AABB」といった形で2語の動詞に連続して行われることもある。この形の反復により派生される意味は2.1.2.1と2.1.2.2で記述するように、繰り返しの行動を表す場合もあれば、慣用的な意味合いを持つようになる場合もある。

### 2.1.2.1 繰り返しの行動

2語の動詞に反復が連続的に行われると、それぞれの動詞が表す動作が交互に繰り返される出来事を表している。例を (18) ～ (20) で見てみよう。

(18) khēm winaathii dəən dəən yùt yùt...

秒針が動いたり、止まったりを繰り返して、、、、

[<https://www.pantown.com>]

(19) thao ca khào khào ?òk ?òk hōy nīi hōy nóon ?iik naan mái.

君はいつまであちこちの部屋を出たり入ったりしているの。

[<https://dict.longdo.com>]

(20) khəoi cəə panhăa lûuk-cāa khào khào ?òk ?òk naan kan bōi mái.

従業員がしょっちゅう入ったり辞めたりする問題に直面したことがありますか。

[<https://pantip.com>]

(18) の「dəən dəən yùt yùt (歩く・歩く・止まる・止まる)」は「dəən (歩く)」と「yùt (止まる)」を交互に繰り返すことを表す。そして (19) と (20) の「khào khào ?òk ?òk (入る・入る・出る・出る)」は、日本語で言うところの「出たり入ったり」という意味で、「khào (入る)」と「?òk (出る)」という行動が交互に繰り返されている状況を表す。(19) の「khào khào ?òk ?òk (入る・入る・出る・出る)」は同一の人物によって行われるが、(20) の「khào khào ?òk ?òk (入る・入る・出る・辞める・出る・辞める)」は複数の人物によって行われる。

動詞 2 語に連続的に反復が行われると、単数または複数の動作主により、繰り返し行われる行動を表す。

### 2.1.2.2 慣用的な意味合い

2語の動詞に反復が連続的に行われると、本来その動詞が表す動作や行動から離れて別の意味合いを持つようになる場合もある。例を (21) と (22) で見てみよう。

(21) thaa thùuk lóttəərīi sák sām-sip lāan, khon kin kin nōn nōn pai talōt chiiwīt, mīi tōy thamjaan.

宝くじで3千万バーツ当たったら、一生働くことなく食べたり寝たりするだけ (= 楽な暮らしをする) でしょう。

(22) pūu bōn wāa yūu thīi nān wan wan dāi tē nān nān nōn nōn, bāa ca taai.

お祖父さんはそこにいて、毎日座ったり寝たりしている (= 何もすることがない)

だけで、とても退屈だとほやいている。

例 (21) の「kin kin nɔɔn nɔɔn (食べる・食べる・寝る・寝る)」は「食べる」と「寝る」の二つの動作の繰り返しから「楽な暮らしをする」という意味合いを持つようになる。また、例 (22) の「nâŋ nâŋ nɔɔn nɔɔn (座る・座る・寝る・寝る)」は「座る」と「寝る」の二つの動作の繰り返しから「何もすることがない、何もできないことがない」という意味合いを持つようになる。

2.1.2.1 と 2.1.2.2 の記述の通り、意志動詞2語に反復が行われると、複数の動作の繰り返しを表すようになる場合もあれば、例 (21) と例 (22) のように、本来それらの動詞が表す動作や行動とは別の意味合いを持つような意味的拡張が見られる場合もある。

上記の通り、意志動詞は繰り返されると、行動に積極性が欠けるという意味合いを持つようになる場合もあれば、逆に積極的に行うという意味合いを持つようになる場合、また行動が連続的に繰り返しているという意味合いを持つようになる場合、更に慣用的な意味合いを持つようになる場合もある。それらの意味合いは動作や行動そのものだけではなく、動作主の心理状態が含意しているものもある。これらの繰り返しは「kradòot (飛ぶ)」や「ʔòk kamlaŋ kaai (出す・力・身体＝運動する)」のような多音節の単純語や複合語の動詞に行われるのではなく、単音節である単純語の動詞にしか見られない。また、反復が行われた動詞は文中で動詞として用いられることが多く見られる。一方、副詞として文頭に置かれていることや、他の動詞に後続するとその動詞を修飾し、副詞的に用いられることもあれば、他の名詞を修飾し、形容詞的に用いられることもある。逆に言えば、副詞として文頭に置かれる、または他の動詞や名詞の修飾語として用いられる動詞は繰り返されることが一般的であることが分かった。

## 2.2 無意志動詞の反復

無意志動詞は、内山 (2010) によると「意志的な動作・行為を表さなく、主語が意志的に制御できない動詞である。希望・可能・命令・禁止等の形態を持たない」。タイ語においては、たとえば、chɔ̌p (好む)、hěn (見える)、tòk (落ちる)、còp (終わる)、などは無意志動詞だと思われる。無意志動詞における反復は意志動詞における反復と同様に、単独の動詞で行われることもあれば、連続している複数の動詞で行われることもある。本節では、無意志動詞の反復について、単独の動詞で行われるものと複数の動詞に連続して行われるものに区別し、さらにそれぞれの反復から生み出される意味合いを系統別に記述していく。

### 2.2.1 単独の無意志動詞において行われる反復

単独の無意志動詞には、反復が行われると、その動詞の本来の意味が強くなる場合もあれば、漠然として曖昧な状態や感覚を表すようになるものや、慣用的な意味合いを持つようになるものもある。それぞれの反復から生じる意味については2.2.1.1～2.2.1.3で記述する。

#### 2.2.1.1 強調される状態

単独の無意志動詞に反復が行われると、本来持っている意味が強くなることがある。例を(23)～(27)で見てみよう。

- (23) ráp ráp pai thəʔ khruu. ruən ca dāi còp còp.

先生、さっさと認めてよ。(そうすれば)問題は直ぐ解決出来るんだから。

[<https://hi-in.facebook.com/>]

- (24) khǎai ʔaahǎan thelee sòt sòt, sòt cɨŋ cɨŋ, yaŋ pen pen yùu ləəi.

新鮮なシーフードを売っています。本当に新鮮です。まだ生きている状態です。

[<https://www.youtube.com/watch?v=6vZCrhxYmJk>]

- (25) pəəp phítsadaan, hěn lěeo ʔuŋ, yaŋ pen pen yùu ləəi.

変わった食べ方だ。見ると言葉に詰まった。まだ生きている状態だ。

[<https://highlight.kapook.com/view/161217>]

- (26) thammai puu-dam káo thúŋ tɔŋ khǎai pen pen.

なぜプーダム(カニの一種)は生きたまま売らないといけないの？

[<https://pnatip.com>]

- (27) mákan phaŋàʔ khùt himáʔ cəə kěŋ, mii khon khàp tua pen pen yaŋ yùu dūai.

アメリカはびっくりした。雪を掘ったらまだ生きている運転手が乗っている車を見つけた。

[<https://www.khaosod.co.th/28-02-19>]

(23)の「còp(終わる)」の繰り返し「còp còp(終わる・終わる)」は、「早く終わる」という意味で用いられる。その例は、ある教師が、他人が持っている当たりの宝くじが自分が落としたものであると主張して訴えを起こし、裁判が長引く中でのネットニュースに対してのコメントの一つである。宝くじは自分のものではないと認めれば、長い裁判

も早く終わることができるという意見である。(24)～(25)にある「pen (生きている)」の繰り返しである「pen pen (生きている・生きている)」は、特に「生きている」状態が強調される場面に用いられる。どちらの例においても、「yaŋ pen pen yùu ləəi (まだ生きている)」という形で動詞として用いられている。(24)にある「yaŋ pen pen yùu ləəi (まだ生きている)」は、シーフードの新鮮さを強調するために用いられており、(25)の「yaŋ pen pen yùu ləəi (まだ生きている)」は、「生きたままで食べる」ということに対する驚きを表すために、「まだ生きているのに」と強調されている。(26)の「pen pen (生きている・生きている)」は「khǎai pen pen (生きている状態で売られる／生きたままで売られる)」という形で、動詞「khǎai (売る)」を修飾し、副詞的に用いられている。そして(27)の「pen pen (生きている・生きている)」は「tua pen pen (生きている姿／生きている状態)」という形で、名詞「tua (体)」を修飾し、形容詞的に用いられている。

上記の(23)～(27)に見られるように、単独の無意志動詞において反復が行われるとその動詞が本来持つ意味が強くなり、ある状態が強調される場合に用いられる。特に、(26)と(27)のように、その動詞が他の動詞または名詞の修飾語として用いられる場合、「khǎai pen pen (売る・生きている・生きている)」や「tua pen pen (体・生きている・生きている)」のように反復の形で用いられ、「khǎai pen (売る・生きている)」や「tua pen (体・生きている)」のように単独で用いられることはない。

### 2.2.1.2 漠然的で、曖昧な状態や感覚

単独の無意志動詞に反復が行われると、(28)～(32)で示すように、漠然的で、曖昧な状態や感覚を表すようになる場合がある。

(28) kháo kǎ khon chǎp chǎp phūu-yǐn khon nán, tē khon yaŋ mǎi thǔy khanàat káp rák.

彼はその女性のことがちょっと好きだったので、まだ愛しているというほどではなかったかもしれない。

(29) chuā nǐ khún khún mǎn khəəi dǎiyin thīnǎi.

この名前はどこかで聞いたことがあるような気がする。

(30) chán yaŋ non non yùu káp kham phūt khǎy kháo.

彼の言葉でまだ少し茫然となっている。

(31) sǎn phīi-sǎo khǎy thaarók nán yuən yùu hàan hàan khəəi duu wā ca mii hētkaan ʔarai kəət khūn káp nǎy.

その赤ん坊の姉はちょっと離れて立っていて、赤ん坊に何が起こるのを見張っている。  
[https://www.bible.com]

(32) rao ca m̄i ph̄ut rūaŋ kh̄riat kh̄riat kan ná.

私たちは堅い話 (ストレスを感じる話)はしないね。  
[https://books.google.co.jp.]

(28) の「ch̄ɔp ch̄ɔp (好む・好む)」は「ちょっと好きだ」、「どちらかと言えば好きだ」という意味合いで用いられ、「ch̄ɔp (好きだ)」と違って、その好きな感覚が曖昧であることを表している。(29) の「khún khún」は「馴染む、またはよく目や耳にする」という意味がある動詞「khún」の繰り返しであり、「耳にしたことがあるような気がする」となるように、漠然的な意味合いを持つようになっていく。(30) の「n̄on n̄on (茫然となる・茫然となる)」は「ちょっと茫然となっている」という意味合いで用いられる。その動詞「n̄on (茫然となる)」が本来表す状態より意味が軽くなっている。(31) の「h̄aŋ h̄aŋ (離れる・離れる)」は「少し離れている」という意味合いになり、「yuu (立つ)」を修飾し、副詞的に用いられる。(32) の「rūaŋ kh̄riat kh̄riat (話・ストレスを感じる・ストレスを感じる)」は「どちらかと言えばストレスを感じる話 (堅い話)」という意味合いを持ち、繰り返さない「rūaŋ kh̄riat (ストレスを感じる話)」より意味が曖昧であり、軽くなっている。この例文にある「kh̄riat kh̄riat (ストレスを感じる・ストレスを感じる)」は動詞ではなく、名詞「rūaŋ (話)」を修飾し、形容詞的に用いられている。

上記の (28) ～ (32) の場合、無意志動詞に反復が行われると、2.2.1.1にある (23) ～ (27) で表されている意味とは逆で、曖昧になり、漠然としたものになる。また、(28) ～ (30) のように、繰り返しが行われても動詞のままで用いられるものもあれば、(31) と (32) のように、繰り返しが行われることで他の動詞を修飾し副詞的に用いられるものや、他の名詞を修飾し形容詞的に用いられるものもある。

### 2.2.1.3 慣用的な意味合い

単独の無意志動詞において反復が行われると、その動詞が本来表す意味から拡張され、別の意味を表すようになることも多く見られる。例を (33) ～ (41) で見てみよう。

(33) thammai riak sii?iú kh̄áo th̄ai h̄en h̄en yùu w̄a pen s̄i dam.

色が黒いのは明らかなのになぜ白いお醤油と呼ぶのでしょうか。

[http://www.youtube.com/watch?v=r1cqdpYAipw]

(34) ph̄onláp k̄ȳȳaŋ th̄ai h̄en h̄en kan yùu w̄a m̄i s̄am̄at p̄ŋkan ?arai ?arai d̄ai l̄oi.



結果は明らかなように何も防ぐことが出来ない。

[thai-language.com/id/228732]

- (35) loŋthun khondoo kamrai hěn hěn.

コンドミニアムの建設に投資することは間違いなく儲かる。

[https://www.facebook.com/pg/investcondopattaya/posts/]

- (36) thao khuan yuu hàaŋ hàaŋ phûak ní wái ca dii kwàa.

あなたはこの連中から離れている（関わらない）方がいい。 [https://dict.longdu.com]

- (37) mễ sàŋ hâi káo pai ráp yâat hàaŋ hàaŋ khon nưŋ thĩ Moo Chit cháo wan nĩ.

彼のお母さんは彼に、今朝モーチットへ一人の遠い親戚を迎えに行くように命令した。 [https://dict.longdu.com]

- (38) chaao wiatnaam phũm, dãi hěn Kim Jeong-eun tua pen pen.

金生恩の実物を見ることが出来て、ベトナム人は喜んでいた。

[https://www.pptvhd36.com/27-02-19]

- (39) con krathân pramaan tii sớŋ khưŋŋ rao dãi hěn lưuk tào maphuau tua pen pen tua rếk.

朝2時半になって、我々はやっとタオマフアン（亀の一種）の実物を初めて見ることが出来た。 [mgonline.com 25-02-19]

- (40) yuu yuu káo kớ hăai pai, thamŋai dii ká

突然彼は姿を消した、どうすればいいでしょう。

[https://pantip.com]

- (41) sũa mưu sớŋ thĩ nũu sũa nã, phlớ phlớ pàan ní cảo-khớŋ ?àat ca taai pai léeo kớ dãi máŋ.

あなたが買った中古服は、ひょっとしたらその持ち主はもう生きていないかもしれないよ。 [https://books.google.co.jp]

(33) と (34) にある「hěn hěn（見える・見える）」は「hěn（見える）」から拡張され、「明らかである」という慣用的な意味を持つようになっている。(35) の「hěn hěn（見える・見える）」は「目に見えている、疑いなく、間違いなく」という意味で、動詞「kamrai（儲かる）」を修飾し、副詞的に用いられる。(36) の「hàaŋ hàaŋ（離れる・離れる）」は「yuu（いる）」と共に、「yuu hàaŋ hàaŋ（いる・離れる・離れる）」として表現され、「関わらない」という意味合いを持つ。(37) の「hàaŋ hàaŋ（離れる・離れる）」は、名詞「yâat（親戚）」

を修飾し、「遠い（親戚）」という意味合いで、形容詞的に用いられる。(38) と (39) にある「pen pen (生きている・生きている)」はいずれも「tua (身体)」を修飾し、「tua pen pen」という形で用いられ、「(写真、映像等の媒体を通さず) 実物、現物」という慣用的な意味を持ち、形容詞的に用いられている。(40) の「yùu yùu (いる／ある・いる／ある)」は「yùu (いる／ある)」という動詞の反復語であるが、「yùu (いる／ある)」から離れて、「突然」という意味で、副詞として用いられる。同様に、(41) の「phlǎə phlǎə」も「phlǎə (うっかりする、気づかない)」の反復で、「ひょっとしたら」という意味合いになり、副詞として用いられる。

単独無意志動詞に反復が行われると、2.2.1 の記述の通り、様々な意味的变化が起こる。意味が強くなるものもあれば、逆に意味が曖昧になったり、弱くなるものもある。また、それらの動詞が本来持つ意味から拡張されて別の意味合いを持つようになるものもある。そして、反復が行われても動詞として用いられる場合もあれば、動詞ではなく副詞として文頭に置かれる場合や、他の動詞に後続し副詞として、または他の名詞を修飾し形容詞として用いられる場合も多く見られる。

## 2.2.2 複数の無意志動詞に行われる反復

反復は単独の無意志動詞だけではなく、2 語の無意志動詞においても連続して行われることがある。無意志動詞 2 語において反復が連続して行われると、下記の例で示すように、二つの物事、または二つの心情が混じり合っている状態、あるいは二つの物事が交代で繰り返し行われている状態を叙述する場合に用いられる。

- (42) klâa klâa klua klua kâp kaan khít ca loŋ thun tham thúrakít pen khǝŋ tua ʔeep.

自分のビジネスに投資することを考えると、勇氣も湧くが怖さもある。

[<https://pantip.com>]

- (43) fai tít tít dâp dâp plǝek héʔ.

電気はついたり消えたりしていて、おかしいね。

[<https://www.youtube.com/watch?v=hBKXdZRWqPc>]

(42) の「klâa klâa klua klua (敢行する・敢行する・怖がる・怖がる)」は、「そのことを敢行しようと思うだけでなく、怖いとも思う」または「敢行しようと思うときもあれば、するのが怖くなる時もある」という意味で用いられ、「klâa (敢行する)」と「klua (怖がる)」といった揺れ動く二つの心情を表している。そして、(43) の「tít tít dâp dâp (つく・つく・消える・消える)」は「ついたり消えたりしている」または「つく時もある、消えるとき

もある」という意味合いになり、電気の「tít (つく)」と「dáp (消える)」といった状態が交互に繰り返していることを表している。

2.2の(23)～(43)の例で示したように、無意志動詞における反復は、すべて単音節の単純語の動詞において行われる。多音節の単純語または複合語において行われることは見られなかった。また、単独の無意志動詞において行われることもあれば、2語の無意志動詞において連続して行われることもあることが分かった。単独の無意志動詞において行われる反復は様々な意味合いを生み出す。意味が強くなったり弱くなったり、曖昧になることやそれぞれの動詞が本来表す意味から拡張されて慣用的な意味合いを持つようになるものも多く見られる。一方、2語の動詞において連続して行われる反復は二つの状態または心情が混じり合っている、あるいは二つの状態が交互に継続的に行われるという意味合いを生み出す。また、繰り返しが行われる無意志動詞はそのまま動詞として用いられるものもあれば、動詞ではなく副詞や形容詞として用いられるものも少なくない。

### 3. 結論

2章で記述したように、動詞の反復は、意志動詞においても無意志動詞においても行われ、そこに意味的な変化だけではなく、機能的な変化も見られることが明らかになった。反復が行われるそれらの意志動詞と無意志動詞の構成、そしてそこに見られる意味や機能の変化は下記のようにまとめることができる。

第一に、動詞の構成。動詞の反復は、意志動詞においても無意志動詞においても、多音節の単純語または複合語において行われることは見られなかったため、基本的に単純語の単音節語の動詞において行われるものと考えられる。

第二に、意味の変化。動詞の反復が行われると、元の意味から様々な変化が生じる。また、意志動詞の反復と無意志動詞の反復とでは、それらの意味の変化には異同が見られる。「kin kin (食べろ！食べろ！)」のような命令形の催促、「còp còp (早く終わる)」のようなそれらの動詞が表す本来の意味が強化されること、「yím yím (少し微笑んでいる)」、「cháp chap (少し好きだ)」のようにそれらの動詞が表す本来の意味が弱化されること、そして「cáp cáp (何回も触った)」、「dăn dăn yút yút (歩いたり止まったりしている)」、「tít tít dáp dáp (ついたり消えたりしている)」のようにそれらの動詞が表す、ある行動または複数の行動あるいは状態の繰り返しや継続の意味合いを持つようになること、また、「cùu (突進する)」→「cùu cùu (突然)」、「lên (遊ぶ)」→「lên lên (本気ではなく遊び半分で～)」、「phlăo (うっかりする、気付かない)」→「phlăo phlăo (ひょっとしたら)」、「hěn (見える)」→「hěn hěn (明らかに)」のようにそれらの動詞の本来の意味から拡張され慣用的な意味

を持つようになるところは、意志動詞と無意志動詞の繰り返しに共通して見られることである。しかし、「chûai chûai kan (助け合う)」のように、複数または不特定多数の対象者に対し何らかの行動を促す依頼あるいは命令を表すようになることや、「yím yím (<何か隠し事があるため心を開いて微笑むことができないため>少し微笑んでいる)」のように動作主の心理状態を含意することが意志動詞の繰り返しには見られるが、無意志動詞の繰り返しには見られない。

第三に、機能転換 (品詞転換)。動詞において反復が行われても動詞のままで用いられる語もあれば、反復が行われると動詞として用いられなくなる語もある。前者は意志動詞の「yím (微笑む)」→「yím yím (少し微笑んでいる)」や、無意志動詞「chôp (好む)」→「chôp chôp (ちょっと好きだ)」などである。これらの動詞には、繰り返されると意味の変化が生じても動詞としての機能は存続している。一方、後者は、「lên (遊ぶ)」→「lên lên (遊ぶ・遊ぶ=遊び半分で、軽率な～)」、「cùu (突進する)」→「cùu cùu (突然～)」のような意志動詞の反復、「hên (見える)」→「hên hên (明らかに、明らかな)」、「phlǎo (うっかりする、気付かない)」→「phlǎo phlǎo (ひょっとしたら)」のような無意志動詞の反復に見られるように、副詞として、または形容詞として用いられている。これらの動詞は反復が行われると動詞としての機能が失われ、副詞、または形容詞への転成 (品詞転換) が生じる。逆に言えば、意志動詞であろうと無意志動詞であろうと、動詞が副詞または形容詞へ転成されて用いられるには反復が必要である。

#### 4. おわりに

タイ語では反復が行われる動詞は数多くあるが、全ての動詞において反復が行われるわけではない。基本的には単音節の単純語において行われ、多音節の単純語と複合語においては行われている例は見られなかった。また、反復が行われると意味的、機能的に変化が生じることが多く見られた。先行研究が指摘している動詞の反復は繰り返しの行動を表すこと以外にも、意味の強弱化、慣用的な意味、また動詞から副詞や形容詞といった機能の転成もあることが本研究で明らかになった。特に機能転成については、動詞が副詞や形容詞に品詞転換されるには反復が必要であることをさらなる資料の収集と考察をすることで確認していきたい。

#### 注

- 1) Romphaeng 『Bupphesanniwaat』、2015、Happy Banana、Bangkok.
- 2) タイ語母語話者コンサルタントは共通タイ語をしゃべっている 20 代～ 60 代の男女 7 名である。内訳：20 代の女性 2 名、20 代の男性 1 名、30 代の男性 1 名、40 代の男性 1 名、50 代の女性 1 名、50 代の男性 1 名。

- 3) 本稿では、意志動詞と無意志動詞の定義は内山和也（2010）、[web.ydu.edu.tw/~uchiyama/1h93fy/ishi.html](http://web.ydu.edu.tw/~uchiyama/1h93fy/ishi.html)（2019年3月13日閲覧）を参考にしている。

## 参考文献

岩波書店（編）

- 2008 『広辞苑』岩波書店、東京。

富田 竹次郎

- 1990 『タイ日辞典』養徳社、天理。

三上 直光

- 2002 『タイ語の基礎』白水社、東京。

宮本 マラシー

- 2003 『タイ語表現法』大阪外国語大学、大阪。

- 2019 「タイ語における名詞の反復」、『外国語教育のフロンティア』2、大阪大学大学院言語文化研究科、大阪、29－51。

Anchaleenukoon Sunan

- 2003 Rabop Kham Phasaa Thai（タイ語における語の構成）、Krongkaan Phoepphræ Phonngaan Wichakaan, Faculty of Arts, Chulalongkorn University, Bangkok, 24-32.

Bandhumedha Navavan

- 1970 Kaan Chai Phasaa Thai（タイ語の使い方）、Kaan-Phim Satreesarn, Bangkok.

Bruminhen Sujitra

- 1966 “Kham Sam Nai Phasaa Thai (Reduplication in Thai)” Master’s Thesis, Chulalongkorn University, Bangkok.

Chuartchinnapa Pornthip and Paksasu Amnat

- 2016 “English Words in the Formation of Thai Synonymous Compounds and Reduplicated Words” in Wannawithat, Vol.16, Faculty of Liberal Arts, Thammasart University, Bangkok.

Iwasaki Shoichi and Ingkaphirom Preeya

- 2005 A Reference Grammar of Thai, Cambridge University Press, New York.

Noss, Richard B.

- 1964 Thai Referenc Grammar, Government Printing Office, Washinton D.C.

Paksasuk Amnart, ‘khoo Sangkeet Kiaokap Kham Sam nai Phasaa Thai’ [arts.tu.ac.th/culture/010856.pdf](http://arts.tu.ac.th/culture/010856.pdf)

Sompong Supranee

- 1967 “Laksana Kham Sam nai Phasaa Thai (Characteristics of Thai Reduplications)” 修士論文、Chulalongkorn University, Bangkok.